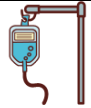



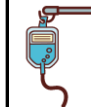
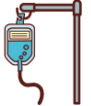


キイトルーダ+FP療法の治療をお受けになる方へ

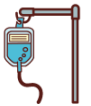
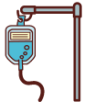
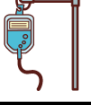
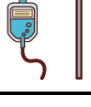


腫瘍は、正常細胞に比べて分裂増殖が盛んです。
 フルオロウラシル、カルボプラチンは、分裂増殖が盛んな細胞に作用します
 正常細胞でも分裂増殖が盛んな細胞は、薬の影響を受けやすく
 副作用として現れてきます。
 キイトルーダは私たちがもともと持っている免疫の力を回復させることで、がんへの攻撃を高める、これまでとは異なるメカニズムに基づく『がん免疫療法』の治療薬です。
 以下に、キイトルーダ、フルオロウラシル、カルボプラチンによる治療の副作用をご説明しますがこれらの副作用がすべての方に必ず起こるわけではありません。

薬の名前	1日目	2日目	3日目	4日目	～21日目
成分名：ペムブロリズマブ (商品名：キイトルーダ)		休み			
1～4日点滴後、休薬					
成分名：フルオロウラシル (商品名：フルオロウラシル)					5日目以降休み
成分名：カルボプラチン (商品名：カルボプラチン)		休み			

症状や経過に合わせてお休み期間は変わります。

1日目のスケジュール

	点滴時間	薬の名前	薬の働き
		生食50ml	生理食塩水：ルートの確保
	30分	生食100ml キイトルーダ	腫瘍の細胞分裂を抑える。
		生理食塩水50ml	生理食塩水：状態の観察、ルート内の洗浄
	15分	生食50ml パロノセトロン、デキササート	吐き気止め
	2時間	生食500ml カルボプラチン	腫瘍の細胞分裂を抑える。
	24時間	フルオロウラシル	腫瘍の細胞分裂を抑える。

◎起こりやすい副作用について

キイトルーダによる副作用

●免疫チェックポイント阻害剤

免疫チェックポイント阻害剤の副作用はご自身の免疫機能が過剰に働くことで体のどこかに影響がでることがあります。詳しくは別紙を参照してください。

フルオロウラシル、カルボプラチンによる副作用

◎注意が必要な副作用について

●食欲不振・吐き気

程度の差はありますが、ほとんどの方に認められる症状です。

点滴治療の場合には点滴終了後3日程度と言われていました

症状が強い場合は時期に合わせて、吐き気止めのお薬を追加することがあります。

●疲労感

身体がだるく感じたり、疲れやすさを感じることがあります。多くは点滴後3日間程度と言われていました。この期間は無理をせず休息をとるほか、散歩など気分転換をはかるとよいと言われています。

●骨髄抑制

白血球が少なくなると、病原菌に対する体の抵抗力が弱くなり、感染症を起こしやすくなります。そのため、手洗い・うがいを心がけましょう。

特に治療期間中38.0度以上の発熱、37度台であっても悪寒や咳、のどの痛み、排尿時の痛みなどがある場合は感染症にかかっている場合があるので病院へ連絡しましょう。

赤血球が減少することで貧血になる場合があります。

血小板は止血に働くため減少が強いと出血しやすくなります。歯茎からの出血や鼻血の症状に注意が必要です。

●下痢・便秘

1日3回以上の排便回数の増加や水様便が出る場合があります。

症状が続く場合は、脱水症状を防ぐため水分補給を行ってください。

症状に合わせて下痢止めを使うことがあります。

また、便秘になる場合もあるので便秘の場合は下剤を使用することがあります。

●口内炎

口の中・歯肉・咽頭がしみる、ひりひりする、赤くなるといった症状が出る場合があります。

口内炎は予防がもっとも大切です。口の中を清潔に保つよう心がけましょう！！

●味覚障害

味覚障害は、甘味、塩味、酸味、苦味、旨味の5つの基本味の変化に対する症状であり、具体的には何を食べても味が薄く感じる(味覚減退)や味を全く感じない(味覚消失)などを生じる場合があります。

●血管痛・静脈炎、注射部位熱感・局所痛

薬が血管を刺激するため、治療中に血管の痛みや腫れが起こることがあります。また、数日後にも発赤、腫脹、熱感などを感じる場合があります。異常を感じたらすぐにお知らせください。点滴の種類によっては点滴する腕を温めて点滴をします。

●間質性肺炎

息切れ、呼吸苦、せき及び発熱の症状が続く場合は早めに相談しましょう。

●脱毛

この治療は脱毛の頻度がやや高いと言われています。毛が抜けやすくなる、髪を洗ったときに多量の毛髪が抜けるといったことがあります。個人差はありますが、薬の投与2～3週間後から多く起こります。髪は、抗がん剤の治療が終われば3～6ヶ月後には再び生えてくる場合が多いです。

これら以外の副作用があらわれる場合もありますので、気になる症状があらわれた際には必ず医師、薬剤師または看護師にご相談ください。

